

Step2 地域に出よう！

多くの学生が自主的に活動しています。 ※社会状況によっては地域での活動が制限される場合があります



大学における地域住民とのワークショップ



地域における高校生とのワークショップ



茶畑で地元農家とのワークショップ



研究成果をもとにした自治体への政策提言



自治体の課題解決に向けた研究発表



地域住民を対象とした健康増進の啓発事業

Step3 表彰・称号にチャレンジしよう！

◆成果発表会と「地域みらい研究賞」の授与

学生のみなさんが年間を通じて取り組んだ地域志向研究／地域貢献プロジェクトの成果を発表する場を用意しています。優れた発表には「地域みらい研究賞」を授与します。令和4年度は、COCセンターが共生事業を受託している静岡市駿河区の静岡市地域福祉共生センター「みなくる」において、6チームが1年間の活動の成果を発表しました。



※発表順に掲載 ○は「地域みらい研究賞」受賞

1	中部横断自動車道の開通による経済効果と波及効果	経営情報学部4年	深田 千智
2	静岡県立大学の薬学部生に対する禁煙支援教育の波及効果の検証	薬学部5年	塚部 凌輔
③	スポーツツーリズムの促進による関係人口の拡大と情報発信	経営情報学部2年	小倉 薫人
4	公営住宅に居住する独居高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討 ～居場所感および社会的孤立との関連～	看護学研究科修士2年	瀧口 惣則
5	島田市の御利益スポットを連携・周遊させる手法	経営情報学部2年	小倉 彩葵子
⑥	焼津産カツオを活用した受験生応援メニューの開発	食品栄養科学部3年	森 千尋
		2年	辻 凌希
		1年	葛山 結衣 伊藤 杏 北村 唯莉

◆コミュニティフェローの称号を授与

しずおか学科目群の成績や地域での活動の実績から、地域課題の解決のために、地域住民とともに、世代・分野・職種を越えた「チーム活動」を牽引できる力（コミュニティ・ワーク力）を備えていると認められた学生には、「コミュニティフェロー」の称号を授与し、認定証が発行されます。将来にわたって、地域でのリーダーとして活躍してもらうことを期待しています。

また、コミュニティフェローの称号を授与された学生のなかで、特に顕著な活動実績があり、リーダーシップを発揮した優秀な学生には、学長より「特別表彰」を授与します。



令和4年度「特別表彰」受賞者

	コミュニティフェロー	特別表彰
平成29年度	178名	7名
平成30年度	132名	10名
令和元年度	147名	10名
令和2年度	94名	9名
令和3年度	73名	8名
令和4年度	91名	7名
計	715名	51名



コミュニティフェロー認定証

地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル

静岡県立大学では、平成26年度からCOC事業を実施するなかで、多くの試行錯誤を重ねた結果、以下のような特徴をもつ、「地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル」と呼ぶシステムを作り上げました。

「地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル」5つの特徴

①内発的動機付け

高等教育機関である大学では、学生が自発的に地域というフィールドに出て、調査研究し学ぶことがコミュニティ・ワーク力の獲得につながり、継続性も担保できる。

②複線型育成ルート

学生が地域というフィールドに出て学ぶルートとして、研究室（ゼミ）、COCセンター、サークル・ボランティア、の3つを設定し、学生に多様な機会を提供する。

③国際的にも活躍できる能力

静岡県では大企業・中小企業の多くが国際展開し、また、インバウンド客が増加するなど、地域志向の学生も国際的に活躍できる人材となることが求められている。

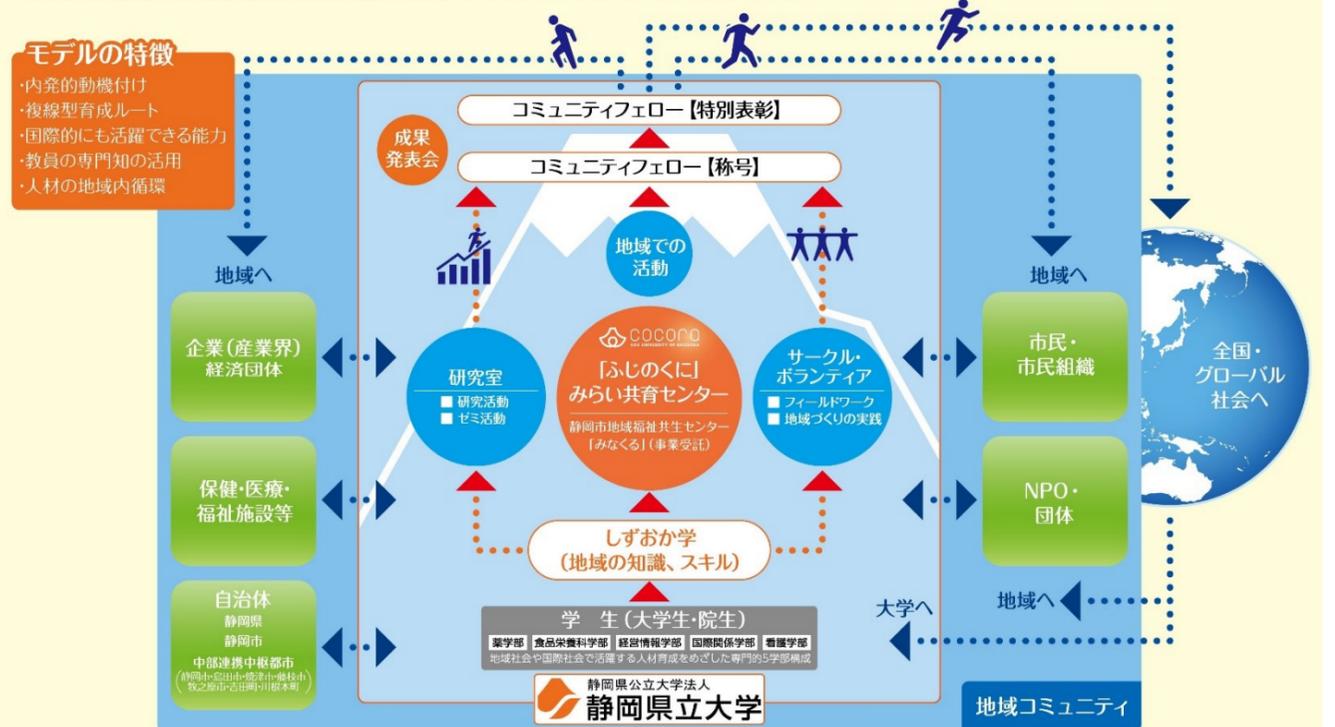
④教員の専門知の活用

地域からは、学生の参加のみならず教員の専門知が求められることが多く、可能な限り教員の専門知と学生の新しい発想や意欲とを組み合わせることとする。

⑤人材の地域内循環

本学から社会に巣立った人材は地域社会や国際社会で活躍する一方、「地域みらいづくりフェロー」や「健康長寿フェロー」になって本学の人材育成に貢献するなど地域内で人材が循環するシステムとする。

■地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル(図式)【通称:静岡県大モデル】



モデルの特徴

- ・内発的動機付け
- ・複線型育成ルート
- ・国際的にも活躍できる能力
- ・教員の専門知の活用
- ・人材の地域内循環